NPO法人かながわ
スポーツボランティアバンク ニュース
第 32 号
発行日：平成 29 年 3 月 10 日

創立 10 周年記念式典開催

Ｈ２９年１月 29 日（日）於：横浜波止場会館、シーサイドラウンジ「サラ」

ＫＳＶＢは、Ｈ１８年３月に「特定非営利活動法人」の認定を受け、１０年が過ぎました。これを一つの節目として、さらに活性化し飛躍できるよう、区切りとして、記念式典、講演、祝賀会を開催しました。また記念誌も発行いたしました。（すでにお手元に送付済みです）

式典祝賀会には来賓・ゲストを含めて、47 名の方がご出席、盛会裏に開くことができました。

理事長挨拶に始まり、御来賓の、KSVB の立ち上げの時に大変ご尽力いただいた、現在は神奈川県スポーツ局参事監　田中不二夫様、現在イベントなどでお世話になっている神奈川県立体育センター所長中園雅勝様お二方に心温まるご祝辞を頂戴しました。田中不二夫様には当時の苦労話もお聞かせいただきました。御来賓として県体育協会　事務局次長でスポーツ振興課課長　須貝謙治様。また、VMCY（ワールドポーターズの事務所を快くシェアしていただいております）理事長　鈴木隆様、 KSVB 第２代理事長渋谷隆宏さん、会員 OB の鎌田雄毅さん、小比田親保さんもご出席いただきました。

また、神奈川大学教授・陸上部監督　大後栄治様のご講演は大変有意義な内容で、皆さん熱心に耳を傾けていました。神奈川大学は、今年の箱根駅伝では、5 位入賞と大躍進をしています。続く懇親会でも終始和やかに歓談し閉会となりました。大後先生の講演内容、写真などは 2～3 ページに特集しております。

活動報告

2017 年 2 月 11 日（土）～12 日（日）

横須賀市立市民活動サポートセンターでのたろんフェア 2017 実行委員会・横須賀市主催で、**【のたろんフェア 2017】**が開催されました。

この催事は市民でボランティア活動をしている市内の団体が一同に集まり一般市民に活動の趣旨･内容・入会を促進する催しです。KSVB 三浦半島地域支部も参加。晴天に恵まれた二日間延べ地域市民 7500 人が来場。三浦半島地域支部のブースにも、数多くの来場者が立ち寄ってくれました。参加した KSVB 三浦半島地域支部会員（池田昌弘さん 、太田俊二さん 、長谷川忠信さん、若山繁見さん、栗原範之さん）は来場者一人一人に・活動内容・入会方法・等をパンフレットを渡しながら、KSVB の生い立ちも説明し一人でも多くの人が入会されることをお願い致しました。

KSVB10 周年記念式典・懇親会

大後栄治様

田中不二夫様

中園雅勝様

【大後先生講演】

今から 30 年ちょっとまえになる。平成元年に、駅伝を強化するということで、神奈川大学に招聘された。4 月に初めて顔を出したとき。３年生以下 21 名の学生がいた。すべて高校 3 年間に陸上のそれなりの成績を残した学生たちで、指定校推薦やスポーツ推薦入ってきた選手ばかり。練習はしているが半分はレクレーションみたいな感じ。それはそれで、意義のあることだが、競技性ということを考えると体育系ではない。初めて選手にあったとき「あれちょっとおかしいな」と思うことがあった。それは体形。肉がついている。そして、はじめて練習した時に 21 名のうち 7 名しか練習に来ない。理由はけがをしている、貧血だと。そして 2 週間たち 4 名になる。果てどうしたことかと当時まだ 24 歳だったが途方に暮れた。とんでもない大学に来た、日本体育大学にいた方が良かったなと。母校に気分転換帰って、ゼミの長田先生（オリンピック選手のメンタルトレーニングをしているスポーツ心理学の先生）に「だめでどうしていいかわからない」と相談した。するとひとこと「大後君。日体大に 6 年いたんだから、それがしみついている。その目線で見ている。その日体大の経験を捨てなさい」と。そしてスポーツセラピーという本をいただいた。

明日から練習はやめようと決め、それから徹底的に選手一人ひとりと面談をした。コーチというより年齢も近いし兄貴という間柄。部長や監督に言えないことを言えと、2 週間かけてやりました。するといろいろなことがわかった。3 年生は、神奈川大学に来るときは憧れの箱根の選手になれるかもしれないという希望を持っていたが、これがとんでもないことと現実を見た。甘いもんじゃないのに、推薦で入ってきたので箱根に出れるだろうと周りから言われる。好きで始めたスポーツをもうやりたくない。目が死んでいるし、体重も多い、日常生活しっかりしていない。2 年生も 1 年間戦ってみて無理と思っている。駒沢、専修、日大から声がかかっていた選手もいた。それでも神大を選んだのは楽しく陸上ができると思ってきた。まともに箱根で走ろうをと思っていない。面談の結果、こういう状況でやってもらちが明かないとわかった。ラッキーだったのは、一緒にはいってきた 1 年生が 2、3 年生の色に染まっていなっかったことです。

そして、結論から言いますと、ホップステップジャンプで、3 年目に予選会 4 番目で 18 年ぶりに出場できたわけです。この 3 年間で指導者として貴重な経験をさせてもらいました。

どういうことをやったかというと、選手は深夜のアルバイトをやっている、冷蔵庫にはチーズとビールだけ、食事もおろそか睡眠も取っていない。親元から離れて好き放題。これではいけないと、2 月に地元の不動産や大家さんにお願いして 1DK のアパートを２棟、OB 会・後援会に頭を下げて購入してもらった。７００万もかかった。そこに、１年間だけ言うことを聞けと３６名全員６畳一間に二人ずつ押し込んだんです。６時半にたたき起こし、朝ごはんも当番制で自分たちで作って食べ、そして、授業が終わったら練習。夜１１時になったら電気を消して寝る。強制収容所みたいで、家に帰りたいとぶーぶー。それを一年間やった。ところが、朝ごはんも夕ご飯もしっかり食べる規則規則正しい生活をしていると体も絞れてくる。気持ちも前向きな状態になってくる。箱根の予選会が１０月にあり、８番という順番がついたんです。苦しい生活をして中身はまだまだだけど数字のマジックで、次はまだ上れるのではないかと錯覚が出てくる。

新木章夫さん

田中初枝さん

鹿嶋健司さん（エール）

予選会は６００人位が一斉に走る。その中で、二人が６００人中１５番から１７、８番でゴールしてきた。その二人は同じようなものを食って、同じような生活習慣でこれだけできるんだから、おいつけないことはないだろうと。チーム内に初めて目指す目標が出てきた。来年は通過できるかもしれないというところまでモチベーションが上がったんです。せっかくここまで来たからもう一年やりましょうと選手から積極的な意見がでてきた。ということでもう一年、合宿を続けた。ところが練習するグランドが満足にない。ラグビーやサッカーと一緒。タックルされて脳震盪を起こし救急車で運ばれることもあった。もう一度わがままを申し上げて、マイクロバスを購入してほしいと申し出た。５時から使える遠くの公共の施設で練習するため、新古車を３００万くらいで買いとった。授業が４時まであるので、それから往復２時間掛けて練習。９時になっても９時半になってもマイクロバスの中。そういう生活が続くと精神的に強くなっていった。でも、まだまだ強豪の大学大東文化大学等のユニホームを見ただけで委縮してしまう。慣れてもらわなければだめだなと。そこで上位にいつも入っていた東京農業大学に合同合宿を申し込み、初日と最終日の練習を一緒にさせてほしと頼み込んだ。そして、自信をつけさせたいと思いある芝居をうったんです。先輩でもある農大の監督さんのところに行って、焼酎を飲みながら、農大の選手に練習で手を抜いてもらうように頼んでくれといった。頭を叩かれたが意図を組んでくれ、キャプテンを呼んでくれた。「少し抑えるように言っときます。」と約束してくれたので、神大の選手達に「勝てないだろうけど背中が見えるように頑張れ」と。その結果翌日の練習で、箱根で活躍した４人の農大の選手と神大の選手７名とが同時にゴールしたんです。目がキラキラ輝いていた。自信付けたなと。

やる気で物事ができるわけではない。できるという小さな成功体験がやる気を生み出す。もっとやりたいという気持ちが出てくる。たくさんの監督さんにあったが、優秀な指導者ほど演出力がある。うまく選手を乗せるのがうまい。指導者でなくても親御さんが子供にたいしても同じだと思います。部下の教育も。自信を持ってもらうのが大事なこと。こう思って今も現場に立っている。主観を大事にしながら相手の立場に立って自分自身を客観視する。選手も自分自身を内省できる、そういう選手が１年２年３年と成長できる。

箱根駅伝についてですが、選手は各大学に４～５０人いる。ずーっと控え選手だった、あるいは控え選手にも入れない、一回も走れない選手が多い。そんなことはメディアは取り上げてくれないけれど、監督はそういう選手が縁の下の支えにどういう気持ちで取り組んでいるかよくよくわかっている。走った１０人も立派ですが、その他の選手も大きな仕事をしていることを大事にしていきたい。人間は足し算ではない掛け算。最終的にチームが持っている雰囲気が大事。一人一人がチームにかかわりをもって担っている。悔しい思いをしている連中がいる。その選手をどこまで引き上げていけるか。今年は、神大は支えた選手の雰囲気がとても良かった。それで晴れやかなお正月を迎えられた。全体は個の総和以上のものです。

★☆☆☆☆☆ **ご　協　賛** ☆☆☆☆☆★

いつもご協力いただきありがとうございます

厨房設備　㈱厨房市場
代表　田中利幸
埼玉県越ケ谷市七左町　6-16-1
☎048-963-1118　FAX048-963-1136
URL:http://www.cyubo-ichiba.com

神事のご相談は**水天宮　平沼神社**
相鉄線平沼駅（横浜駅より１つ目）
横浜市西区平沼 2-8-20
☎　045-321-8895
宮司　松橋基之

(株)クローバー・ネットワーク・コム
〒102-0074
東京都千代田区九段南 4-8-21
山脇ビル９F
☎ 03-5212-9680 FAX: 03-5212-9689
URL:http://www.clovernetwork.co.jp
代表取締役　長原伸介

長善寺(笹寺)
〒160-0004
東京都新宿区四谷 4-4
住職　武村秀夫
☎　03-3351-2389

●活動報告●

H28 年 11 月 3 日（土）横浜ノースドック FALL　RUN

ジャパンスポーツボランティアネッツから初めての依頼。10 名参加。大会終了後は会場内(米軍施設)のバーベキューエリアでホットドック、ハンバーガーの昼食をいただく。

H28 年 12 月 18 日(日)「RxL 年忘れ荒川 30ｋｍチャレンジ」
（ドリームアシストクラブ主催）

荒川河川敷で開催され、6 名が活動した。今回は新たな主催元からの依頼であり、活動場所も 30ｋｍ走の形式。（全員が目標タイムの各ペースメーカーと共に走る）も初めての対応であったが、快晴のなか少人数で担当の給水活動を楽しく終了。

ゲストのマラソンランナー吉田香織さんと一緒の記念写真

H29 年 1 月 31 日（火）京急『スポーツフェスティバル』
（主催グッドスポーツ）

八景島シーパラダイスにて開催され、30 名と大勢活動。早朝より、駅伝大会のコース作りで、カラーコーンを並べたり、案内板の設置を行った。レースが始まると、コース案内をして安全なレースとなるよう努めた。終了後の迅速な撤収作業も行い、主催者側と不具合箇所や配置人数などの反省・改善点などを話し合った。

活動に参加された感想など、バンクニュースへのご寄稿をお待ちしております！！

ＫＳＶＢ事務所
〒231-0001 横浜市中区新港 2-2-1
横浜ワールドポーターズ６階　ＮＰＯスクエア
ＪＲ（京浜東北線）・市営地下鉄 桜木町より徒歩１５分
電話・ＦＡＸ　０４５－６８１－６９６０
Ｅメール：ksvb@samba.ocn.ne.jp
ホームページＵＲＬ　http://ksvb.jimdo.com
発行責任者　ＫＳＶＢ　理事長　浜田淑子